

国際・地域連携センター ニュースレター 〈第16号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者: 吉用武史

はじめに

カツオフォーラム in 宮古島 の開催 ～黒潮町との連携によるカツオ学会活動～

黒潮町と国際・地域連携センターが共同で事務局を運営している日本カツオ学会のフォーラムが、宮古島市にて10月6～7日に開催されます。

去年はかつお節生産量日本一の枕崎市にて開催され、今年はカツオ漁業の基地としても栄えた宮古島市での開催と相成りました。

ご興味・ご関心がございましたら是非ご参加ください。(フォーラムのホームページは[こちら](#))



フォーラム詳細は左画像をクリックしてください。

目次

p1 はじめに

p2 地域連携・再生部門

Topic1. 高知大学・香南市 トップ会談

Topic2. 平成24年度 梶原町・中土佐町
出前公開講座開始

p3 産学官連携部門

Topic1. 産学官ネットワークによる研究開発の推進

Topic2. 心の豊かさを実感できる幸福とは？

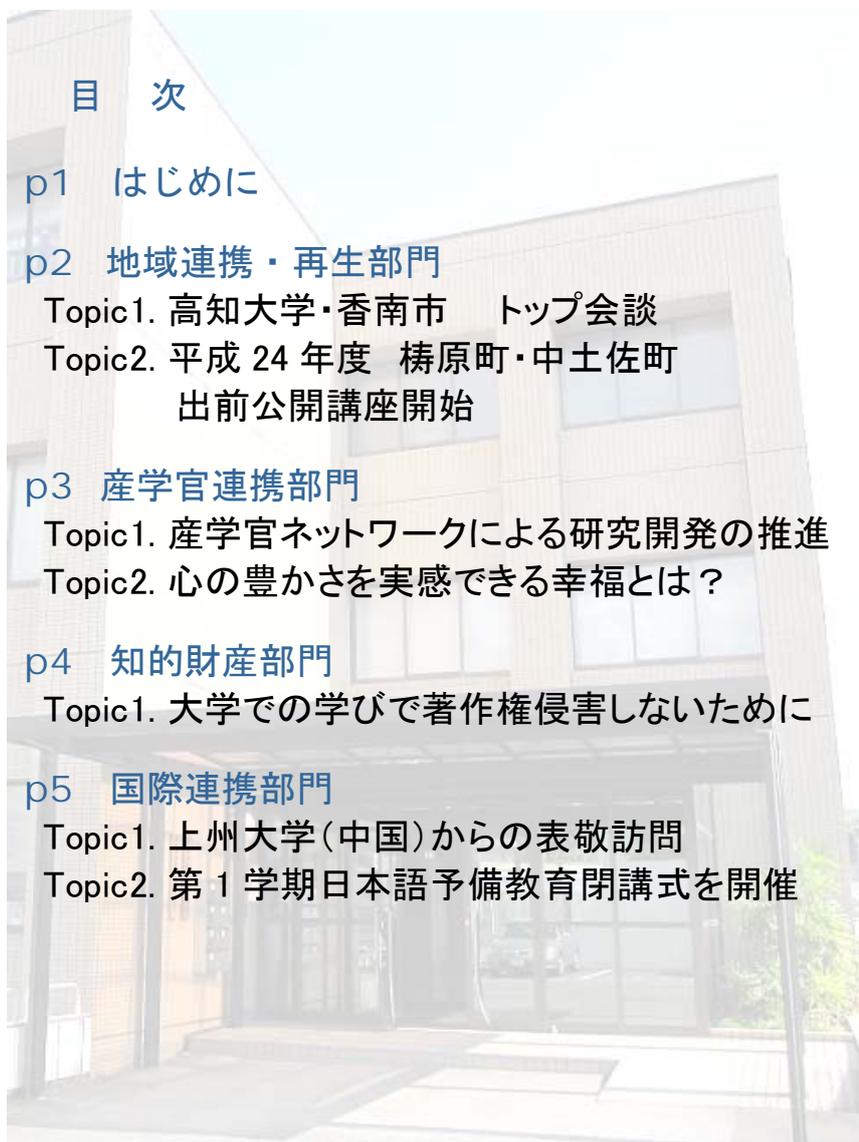
p4 知的財産部門

Topic1. 大学での学びで著作権侵害しないために

p5 国際連携部門

Topic1. 上州大学(中国)からの表敬訪問

Topic2. 第1学期日本語予備教育閉講式を開催



Topic 1. 高知大学・香南市 トップ会談

香南市は高知大学の9番目の連携自治体として平成20年9月12日に連携協定を締結しました。香南市とは「し尿処理浄化槽」の共同研究、「ヒラメ中間育成施設」の利用、「土佐フードビジネスクリエイター人材創出」の開始当初からの参画など、様々な面で連携を進めてきました。

香南市では平成24年7月15日に市長選が行われ、清藤真司市長が初当選されました。新たな市長のもと、今後の高知大学との連携をどのように進めるか、脇口学長と清藤市長が対談し、意見交換しました。

これまでの連携事業について、今後も継続・発展していくことを確認するとともに、新たに市のニーズもお聞きしました。ニーズに対して、本学の力が求められており、ますます連携を深化させていくことが期待されます。



左：清藤市長 中央：脇口学長
右：受田センター長

Topic 2. 平成24年度 梶原町・中土佐町 出前公開講座開始

地域のニーズに応じた公開講座である出前公開講座について、本年度は芸西村、土佐町、大豊町、梶原町、中土佐町の5地域にて実施しています。講座内容が未定であった梶原町と中土佐町について、詳細が決まりました。今回も多くの先生にご協力いただきましたことを御礼申し上げます。

(梶原町)

場所：梶原町地域活力センター

時間：19時～20時半

日程	担当講師名	題目
9月5(水)	医学部看護学科臨床看護学 准教授 戸田 由美子	対人関係を円滑にするためのコミュニケーション 技術 ～感情に焦点を当てたかかわり方～
9月12(水)	医学部附属病院リハビリテーション部 准教授 石田 健司	メタボ対策とロコモ対策 両方そろって元気で長生き
11月7(水)	国際・地域連携センター 副センター長・准教授 石塚 悟史	高知県における再生可能エネルギーの未来
11月28(水)	国際・地域連携センター 特任教授 菊地 智徳	「グローバル人材を考える」 —世界をどう観るのか?—

(中土佐町)

場所：中土佐町民交流会館及び大野見保健福祉センター

時間：19時半～21時

日程	担当講師名	題目
9月6(木)	医学部医療学講座 教授 小林 道也	楽に治そう「がん」
9月13日(木)	総合研究センター防災部門 准教授 原 忠	東日本大震災の教訓と南海地震への備え
9月20日(木)	国際・地域連携センター 特任教授 菊地 智徳	「命と平和」を考える
10月4日(木)	総合研究センター防災部門 准教授 原 忠	大野見地域の防災上の課題

Topic 1. 産学官ネットワークによる研究開発の推進 ～高知県産学官連携産業創出研究推進事業の採択結果～

高知県は、4月16日～6月22日に平成24年度の産学官連携産業創出研究推進事業の募集を行いました。

本事業は、県内に新事業・新産業を創出することによって本県の産業振興につなげるため、県内の産学官が連携して実施する、大学等の研究シーズや企業ニーズに基づく実用化研究(実験室で試作品が完成するなど、3年以内に事業化研究に移行することなどが見込まれる研究)を支援する委託業務です。

審査の結果、高知大学が関係する下記2つのテーマが採択されました。

研究テーマ	研究開発チーム
動脈・静脈穿刺ナビゲーション装置の開発	(代表研究機関) ・高知大学 医療学系基礎医学部門 佐藤隆幸教授 (共同研究機関) ・有限会社恵比寿電機
生分解性抗菌ナノ粒子を不織布加工技術と融合させた医療分野への商品開発および農業水産分野への新規抗菌技術開発	(代表研究機関) ・チカミルテック株式会社 (共同研究機関) ・横浜市立大学 ・高知大学 総合科学系黒潮圏科学部門 大島俊一郎教授 自然科学系農学部門 西村安代准教授 ・高知工科大学

※応募総数:11件

※11件の内訳(県内高等教育機関3機関、県外高等教育機関2機関、県内企業・組合等12社、県外企業1社、公設試験研究機関2機関、その他公的機関2機関)

Topic 2. 心の豊かさを実感できる幸福とは？ ～「土佐の日」にシンポジウム開催～

10月3日(水)は「土佐の日」です。

“競争”から“共生社会”へ！！

～ あらたな一歩は志国高知から！！ ～

毎年、「土佐の日」には様々な催しが行われるとともに、「土佐人・全国大会」と題して、シンポジウムや大懇親会が高知市で開催されます。今年の「土佐の日」は特定非営利活動法人全国異業種グループネットワークフォーラム(INF)全国大会と共催し、開催の予定です。

<http://www.tosajin.net/tosanohi/12/>

日時:平成24年10月3日(水)13:00～17:40

場所:高知県立県民文化ホール オレンジホール

内容:基調講演、討論会等

※「INF 第11回全国大会 in 土佐の日 大討論会」心の豊かさを実感できる幸福とは？

高知大学副学長(国際・地域連携センター長)受田浩之氏がコーディネーターの一人として登壇

Topic 1. 大学での学びで著作権侵害しないために ～高知県で「著作権セミナー」開催～

来る11月26日(月)、著作権に関する基礎的な理解を深め、著作権制度の知識や意識の向上を図ることを目的に、文化庁と共催で平成24年度著作権セミナーが高知県で開催されます。

セミナーは、2部構成となっており、午前は講義「著作権制度の概要」、午後は分科会(①一般・行政職員部会、②教職員部会、③図書館・美術館・博物館職員部会)とし、分野ごとの事例紹介等も行われます。

初心者でも分かりやすい内容となっていますので、行政、教育、図書館等の著作権担当の方はもちろん、大学生等で著作権に興味のある皆様もぜひご参加ください。

日時:平成24年11月26日(月曜日)9時30分から15時30分(受付9時から)

場所:高知会館(高知市本町5-6-42)

対象:一般、行政職員、教職員、図書館・美術館・博物館職員

定員:約200名

参加料:無料(要事前申込)

※詳細については、下記 URL をご覧下さい。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/141701/seminar.html>

著作権制度を取り巻く最近の国の動きとして、第180回通常国会において、著作権法の一部改正法案が平成24年6月20日に成立し、法律の公布がなされました。

改正の一つとして注目すべきものとして、本年10月1日から施行される「違法ダウンロードの刑事罰化」があります。

これまでは、私的使用目的であっても、違法にアップロードされたものと知りながら、権利者に無断で音楽、映像等をダウンロード(録音・録画)する行為は違法(民事上の責任のみ)でありつつも、刑事罰は科されておりましたが、このたびの法律改正により、2年以下の懲役又は200万円以下の罰金が科されることとなります。

日常生活の中で、“ついうっかり”によるトラブルに巻き込まれないためにも、「著作権」に関する理解を深めてみませんか！

※平成24年通常国会 著作権法改正について(文化庁)

http://www.bunka.go.jp/chosakuken/24_houkaisei.html



Topic 1. 常州大学(中国)からの表敬訪問

平成 24 年 8 月 29 日(水)～30 日(木)に大学間協定校である常州大学(中国)から史国東書記他 2 名の来学がありました。学長表敬訪問のほか、理学部長との会談やDCセミナーを実施しました。

同大学は、1978 年に南京化工学院無錫分院として創設され、1992 年に江蘇石油化工学院、2002 年に江蘇工業学院、2010 年に現在の常州大学となり、工学、理学、文学、経済学、法学などの学科を有する総合大学です。表敬訪問では、両校の概要説明や交流の現状のほか、今後の学術研究や学生交流の増加などについて積極的な意見交換が行われました。



Topic 2. 第 1 学期日本語予備教育閉講式を開催

平成 24 年 7 月 30 日(月)に、日本語予備教育の閉講式が行われ、エチオピア出身の国費外国人留学生に菊地副学長(国際・地域連携担当)から修了証書が授与されました。

修了生は、本年 4 月から日本語能力試験 2 級程度のレベルを目標に半年間(週 30 時間)、日本語の学習に取り組んできました。閉講式では、修了証書授与の後、流暢な日本語でこれからも日本語の勉強を続け、研究にも力を入れたいという意気込みを伝える謝辞を述べてくれました。

